國學院大學学術情報リポジトリ

一般体操の国際動向に関する調査：第15回世界体操祭(World Gymnaestrada)の報告より

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-02-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 鈴木, 王香
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001317

〔報告〕

一般体操の国際動向に関する調査

―第15回世界体操祭（World Gymnaestrada）の報告より―

鈴木　王香

【要旨】

世界体操祭（World Gymnaestrada）とは，国際体操連盟が主催する一般体操の国際イベントのひとつである．この最大規模のイベントは４年毎に開催され，非競技性を有し，参加者は性別，年齢，人種，宗教，文化，社会的地位を問わず世界各国から集結する．開催期間中は様々な会場で各国のパフォーマンスや一般体操に関するワークショップが展開される．また，最新の体操用具に関する展示，体験も行われる．体操文化が盛んなヨーロッパで開催され，参加国および参加人数は年々増加傾向にある．本稿は，2015年7月12日～18日にヘルシンキで開催された第15回世界体操祭に演技者として参加するとともに，一般体操に関する国際動向について現地視察を行なった結果を報告するものである．

【キーワード】

一般体操　世界体操祭　国際体操連盟

１．はじめに

一般体操（Gymnastics for All）とは，1881年に国際体操連盟（International Gymnastics Federation：以下FIG）によって定められた体操領域のひとつである．FIG創設者であるNicolas J. Cuperusは，本来体操を娯楽的，有益で楽しい身体活動として，非競技的であるべきだと考えた[1]．つまり，年齢や性別，文化的背景を問わず多様な範囲の身体活動を楽しむことが目的とされている． 公益財団法人日本体操協会は一般体操の考え方として，「一般体操は，あらゆる年代に適し，健康を促進するための身体的，精神的，社会的，また，文化的な側面に貢献し，自主的に楽しく動く体操である」としている[2]． 現在日本においては，全国規模の日本体操祭や一般体操ジャパンチャレンジ，各地域の体操フェスティバル等，様々なイベントが行われ，子どもから高齢者まで楽しみながら日頃実践している体操を披露している．

世界体操祭（World Gymnaestrada ：以下ギムナ）とは，４年毎に開催され，FIG の国際イベントの中で非競技性を有する最大規模のイベントである．参加者は性別，年齢，人種，宗教，文化，社会的地位を問わず世界各国から集結し，各国ごとに一般体操のパフォーマンスを行う[2]．

Gymnaestrada とは，「Gymnastic：体操」と「Estrada：道（ポルトガル語）」の造語である[3]．FIG は，このギムナの目的として，(1)体操の価値と多様性の促進，(2)世界的な一般体操の成長

の促進，(3)FIG加盟連盟の重要な活動の動機づけ，(4)運動の楽しさを鼓吹し，個人の活動の促進，(5)一般体操の様々なアイディアについて無限の可能性の実証，(6)一般体操の最新の知見や発展の提示，(7)指導者の一般的，技術的な教育の支援，(8)国際交流への貢献として世界各国から体操家を集う，(9)公衆への体操の多様性の提示，を挙げている[4]．

FIGが主催する一般体操の国際イベントは，非競技性を有するギムナと，競技性を有するGym for Life Challenge の二つがある．筆者は今回，日本の筑波大学チームの一員として演技者で参加するとともに，一般体操に関する国際動向について現地視察を行なった．

表1　ギムナ開催地と参加国，参加人数の変遷[5] 改変

年	開催地	参加国	参加人数（人）
1953	ロッテルダム（オランダ）	14	5,000
1957	ザグレブ（ユーゴスラビア）	17	6,000
1961	シュトゥットガルト（ドイツ）	16	10,000
1965	ヴィエンヌ（オーストリア）	26	15,600
1969	バーゼル（スイス）	28	9,600
1975	ベルリン（ドイツ）	19	10,500
1982	チューリッヒ（スイス）	22	14,200
1987	ヘアニング（デンマーク）	26	17,300
1991	アムステルダム（オランダ）	30	19,500
1995	ベルリン（ドイツ）	34	19,300
1999	ヨーテボリ（スウェーデン）	37	23,500
2003	リスボン（ポルトガル）	45	21,600
2007	ドルンビルン（オーストリア）	53	22,000
2011	ローザンヌ（スイス）	55	19,087
2015	ヘルシンキ（フィンランド）	53	20,473
2019	ドルンビルン（オーストリア）		

２．本大会の概要について

1）期日，会場

本大会は，2015年7月12日～18日，フィンランドのヘルシンキ市内にて開催された．

2）主催

本大会は，国際体操連盟一般体操委員会（FIG Gymnastic for All committee）の主催で執り行われた．

3）参加国，参加者

本大会は，52カ国から約21,000人が参加した．そのうち開催国フィンランドの参加者は約4000人であった．また，大会に携わったボランティアは約3,500人～4,000人に上った．

4）大会スローガン

本大会のスローガンは「Make the Earth Move」であった．make は，「活動的になる，自ら行動する，全員で足跡を残す」，the Earthは「地球全体，国際性，生活の基礎」，Moveは「動き，スポーツイベント，将来を見据える」という意味が含まれている[6]．

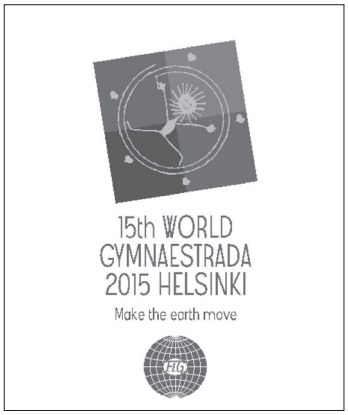

図1　大会ロゴ [7]

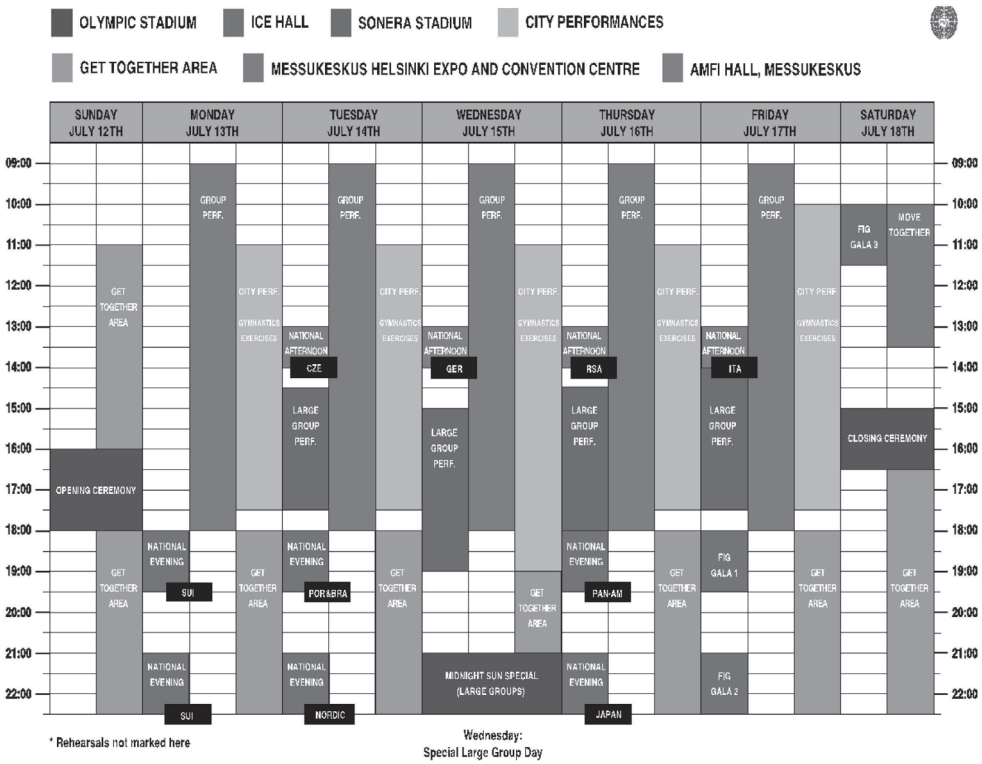

図2　本大会プログラム [7]

３．大会プログラム及び演技内容

1）Opening Ceremony

開会式は，７月12日16時よりOlympic Stadiumにて開催された．図３は，開会式のプログラムを表したものである．自国のウェアを着用した約19,000人の体操家は，各国ごとに旗やボードを持ち順番に行進した．写真１は，行進の様子である．その後，世界体操連盟会長，ヘルシンキ市長，LOC（Local Organising Committee）会長のスピーチ，フィンランド大統領による開会宣言が執り行われた．さらに，オープニングパフォーマンスとして６つの集団演技が披露された．写真２は開会式のオープニングパフォーマンスの様子である．

CEREMONIA DE INAUGURACIÓN - PROGRAMA

Desfile
Todas las federaciones miembros de la FIG participantes

Coreografía de la bandera
Coreógrafas Laura Nihti, Jenni-Kaija Tiainen

Discursos
Profesor Bruno Grandi, presidente de la FIG
Ritva Viljanen, teniente de alcalde de Helsinki
Kirsti Partanen, presidenta del LOC

Inauguración de la Gymnaestrada Mundial 2015 Helsinki
Tarja Halonen, ex presidenta de Finlandia

Izamiento de las banderas

Programa del festival – actuación inaugural:

Let the Fun Begin
Coreógrafa: Eerika Laalo-Häikiö

Best Festival of the Summer
Coreógrafa: Sari Salmaoui

If You Want to Go the the Forest..
Coreógrafa: Heli Suokko-Rajala

Wonderful World of Gymnastics
Coreógrafas: Tatiana Golovina y Silja Ahonen

Pattern of life
Coreógrafa: Marita Haapasalo

Final con todos los gimnastas
Coreógrafas: Laura Nihti y Jenni-Kaija Tiainen

EVENTOS DE LA WG2015

図3　開会式プログラム [7)]

写真1　開会式　行進※

写真2　開会式　パフォーマンス [8)]

2）Group Performances（GP）

グループパフォーマンスは，７月13日～17日，Messukeskus Expo と Convention Centre にて開催された．８つのエリアに分かれ，世界中から 200 以上，計 50 時間以上の多種多様な体操が発表された．写真３・４は筑波大学チームの演技の様子である．今回筑波大学チームはテーマを「Joint!」とし，G ボールや簡易マット，手回し発電型 LED 縄跳びを活用し手具体操の可能性を披露した．

写真3　GP筑波大学１ [9)]

写真4　GP筑波大学２ [9)]

3）Large Group Performances（LGP）

ラージグループパフォーマンスは，７月 14 日～17 日，Sonera Stadium にて開催された．チェコ，デンマーク，フィンランド，イギリス，ドイツ，ノルウェー，スイス，スロバキアが 200 人～1000人以上で１グループとなり，それぞれの国の象徴となる演技が形態や動きの変化を以て展開された．写真５はノルウェーの演技の様子である．

写真5　LGP ノルウェー [9)]

4）National Afternoons（NA）

ナショナルアフタヌーンは，７月14日～17日の13～14時，Messukeskus Expo と Convention Centre にて開催された．このプログラムは，様々な国が各曜日に1時間体操のショーをするものである．本大会では，チェコ，ドイツ，南アフリカ，イタリアがそれぞれ演技を行った．

5）National Evenings（NE）

ナショナルイブニングは，７月13日，14日，16日に，Ice Hallにて開催された．表２は，ナショナルイブニングのプログラムを表したものである．これは，各国が様々なジャンルの体操を幅広く演技し，約２時間リレー形式で展開されるものである．本大会は，スイス，ポルトガル，ブラジル，ノルウェー，アメリカ，日本がそれぞれのテーマを元に演技を披露した．

表2　National Evenings プログラム [7)] 改変

日時		演技国
2015/7/13(月)	18:00–19:30	スイス
	21:00–22:30	スイス
2015/7/14(月)	18:00–19:30	ポルトガル，ブラジル
	21:00–22:30	ノルウェー
2015/7/16(月)	18:00–19:30	パンアメリカン
	21:00–22:30	日本

6）FIG Gala

FIGガーラは，７月17日，18日に，Ice Hall にて３回開催された．これは，参加国から代表チームが集結し，共通のテーマに沿った体操を展開するギムナ最大のイベントである．本大会におけるFICガーラのテーマは「Live, Love & Laugh」であり，18カ国から20チームが壮大な体操の演技を披露した．写真６はドイツ，写真７はカナダ，写真８はブラジル，写真９はスイスの演技の様子である．

FIG GALA

FIG GALA – PROGRAM
LIVE, LOVE & LAUGH

Opening the show

LOVE
introducing the theme

1. USA Biron Gymnastics Show Team
Hearts Beat as One, Gymnastics
Responsible person: Jodie Trnack
2. CHILE Stadio Italiano
Swan Lake, Gymnastics
Responsible person: Ximena Rodriguez
3. GREAT BRITAIN National Disabilities Display Team (ND), Bolero, Gymnastics
Responsible person: Marilyn Rozzell
4. PORTUGAL Ginasio Clube Portugues / Mae d ' Agua, Gymnastic Tango
Gymnastics
Responsible person: Bruno Oliveira
5. GERMANY Zentraler Hochschulsport der TU München Flying Scarlet
Dance and acrobatics
Responsible person: Mr. Thomas Loeffl
6. JAPAN Nittaidai
Fusion of Love, Gymnastics
Responsible person: Miyake Ryousuke
7. FINLAND Finnish National Team
First love, Gymnastics
Responsible persons: Liisa Ahlqvist-Lehkosuo and Liisa Lappalainen

LAUGH
introducing the theme

8. BRASIL Unicamp Gymnastics Group
Balance, Trampoline
Responsible person: Marco A C Bortoleto, Larissa Granner
9. INTERNATIONAL International Old Boys
Happy Gymnastics, Gymnastics
Responsible person: Araki Tatsuo
10. SWEDEN Malmöflickorna
Ball Carnival, Hand apparatus
Responsible person: Tiina Leesment Bergh
11. DENMARK Gjellerup Sdr.
Laugh
Tumbling and dance
Responsible person: Anders Nielsen
12. ISRAEL Gymnast Mazkeret Batya
At the beach, Acrobatics
Responsible person: Nirit Laufer
13. PORTUGAL Ginasio Clube Portugues / Ponto Zero
Ponto Zero in pillowcase, Gymnastics
Responsible person: Joao Martins

LIVE
introducing the theme

14. SWITZERLAND Team Vaud
Team Vaud, Apparatus and gymnastics
Responsible person: Marie-Julie Papaux
15. CZECH REPUBLIC Czech Sokol Organization
Falcon girls
Welcome to the burlesque
DanceAcrobatic rock and roll
Responsible person: Petr Kavalir
16. CANADA Momentum Aerial and Acrobatic Troupe
Space for a Crowded World
GymnasticsAcrobatic, Aerial Arts
Responsible person: Monica Goermann
17. SOUTH AFRICA Gauteng Gymnastics Group
We are Africa
Pantsula, rhythmic gymnastics & dance
Responsible person: Julene van Rooyen
18. ESTONIA GC Piruett Elite Team
Tears of the planet, Hand apparatus
Responsible person: Mall Kalve
19.SWITZERLAND BTV Luzern + TV Wettingen
BTV Luzern + TV Wettingen, Apparatus
Responsible person: Mario Meier
20. AUSTRIA Zurcaroh Akrobatiktruppe Austria
Africa "The Ethnicities of the Race"
Acrobatics
Responsible person: Peterson Da Cruz Hora

Finale

図4　FIG Galaプログラム [7)]

写真6　FIG Gala ドイツ [8)]

写真7　FIG Gala カナダ [8)]

写真8　FIG Gala ブラジル [8)]

写真9　FIG Gala スイス [8)]

7）Midnight Sun Special（MSS）

ミッドナイトサンスペシャルは，７月15日21時よりOlympic Stadiumにて開催された．本大会から初めて行なわれ，開催地フィンランド特有の現象である白夜のもと体操を楽しむプログラムとなっている．図５はミッドナイトサンスペシャルのプログラムを表したものである．本大会はデンマーク，ドイツ，ノルウェー，スロベキア，スイス，フィンランドのラージグループで構成された．写真10はフィンランド，写真11はドイツの演技の様子である．また，この他に，30 カ国以上の体操家約2000人が集結して結成されたギムナ初のワールドチームも披露された．

MIDNIGHT SUN SPECIAL – PROGRAM
EVENING OF LARGE GROUP PERFORMANCES

Theme: We Make the Earth Move under the Midnight Sun with the joy and energy of Large Group Performances.

Finland
The Swan
Gymnastics
Responsible person: Riikka Virkajärvi-Johnson

Slovakia
We & We, Mothers & Daughters
Hand apparatus
Responsible person: Emilia Fialova

Germany
Connecting the World
Acrobatics
Responsible person: Tanja Rack

Norway
Moving Together
Gymnastics
Responsible person: Wenche Havnaas and Vera Radh

Switzerland
Let's Move Together
Gymnastics
Responsible person: Petra Kolliger

Denmark
Rhythmical gymnastics, dance, tumbling
Responsible person: Uffe Strandby

Gymnaestrada World Team
From Near or Far – Come as You Are!
Gymnastics
Responsible persons: Hannele Ahlqvist & Marja Kallioniemi

WG2015 EVENTS

図5　Midnight Sun Specialプログラム [7)]

写真10　MSS　フィンランド [9)]

写真11　MSS ドイツ [9)]

8）Closing Ceremony

閉会式は，７月 18 日 15 時より Olympic Stadium にて開催された．ここでは，上記の World Team が演技を披露し，その後本大会を振り返る映像や写真とともに演技が披露された．

9）Side events

本大会は，体操家のためのプログラムだけでなく，体操の多様性を経験し，国際的な雰囲気を楽しみ新しいエクササイズの方法に挑戦する機会を設けている．ギムナ開催中はヘルシンキをテーマとした体操があらゆるところで披露された．

① City Performances

シティーパフォーマンスは，７月13日～17日，ヘルシンキ市内のSenate Square，Paavo Nurmi field，Linnanmäki amusement park にて開催された．街中の一角もギムナの会場となり，参加者のみならず市民や観光客にも，審美的な体操からダンスまで計50時間以上，200のパフォーマンスが披露された．写真12は，Senate Square でのシティーパフォーマンス会場の様子である．

写真12　Senate Square（元老院広場）でのCity Performances ※

② Gymnastics workshops

ワークショップは，７月 15 日～17 日，Senate Square，Paavo Nurmi Square，Swimming Stadium にて開催された．体操の他，ダンスやボディワーク，水泳等のフィットネスに関する幅広い内容が市民，観光客，体操家に向けて披露された．

③ Gymnastics testing area

テストエリアは，７月13日～17日，Töölö Sports Hallにて開催された．ここでは，無料でトランポリンや新体操の用具を使用して体操のスキルを試す機会が設けられた．

本大会のプログラムでは，徒手体操から器具や手具（手に持って扱える用具）を用いた体操まで様々なアイディアが披露された．器具では，トランポリンやマット，吊り輪等が演技構成の各所に盛り込まれ，その位置関係も観客からの見えやすさや演技者のやりやすさ等によって工夫されていた．特にスイスにおいては，今回ナショナルイブニングにて８つの吊り輪の配置を円にし，円の内側方向に時間差で着地する構成になっており，観客を驚かせていた．一方，手具は，どの年齢層のグループでも多く活用されていた．具体的には，ボールやロープの他に，ホース，布，傘，パンチバッグや家庭用ビニールプールを活用したものも見受けられた．写真13・14は，スイスの手具を用いた演技の様子である．また，各国の特色を示すような用具もあり，フィンランドはソリを用いた体操で自国の冬を表現していた．これらの体操はどれも手具の特性を生かした動き，テーマに合った衣装や構成となっており，身近な用具を体操へ活用する方法について今後の参考となった．演技者に目を向けてみても，特色ある手具を扱うことそのもの，テーマに合った衣装を身につけていること，移動を伴う集団演技を楽しんでいる様子が印象的であった．

写真13　NEスイス　吊り輪 ※

写真14　NEスイス　プール ※

また，これらのプログラムの他に，グループパフォーマンスの会場となった　Messukeskus Expo において一角に展示ブースが設けられ，スポーツ用品を扱う企業等によって体操に関する新しい器具や手具が多数紹介された．写真15・16・17は展示ブースの様子である．ここでは，トランポリンやマット等の体操競技傾向の用具はもちろんのこと，幼児の発育発達に関連するものや，高齢者でも簡単に使用することのできるエクササイズ傾向のものまで，幅広く展開されていた．参加者はこれらのブースにて様々な用具の活用方法について体験や議論を行うといった，ワークショップの要素を含んでおり，人の出入りが耐えない会場であった．

写真15　展示１ ※

写真16　展示２ ※

写真17　展示３ ※

さらに，本大会は，開催期間中を通して共通の体操が用意され，開会式，閉会式，プログラムの合間のあらゆる場面において全員でその体操をする機会が設けられた．動きの特徴としては，簡単な動きをベースに音楽に合わせリズムよく手の上下運動をしたり手拍子をしたりするものであったため，フィールド，スタンドなどの場所を問わず全員が実践できる構成となっていた．大会後半では，指定の音楽が流れると参加者が自然と動き出すまでに浸透し，大会の盛り上がりや参加者の一体感を助長する有効な取り組みであった．

４．World Team の意義

本大会で初の試みとなり，メインイベントのひとつとなったものがミッドナイトサンスペシャルの中で披露されたワールドチームである．参加国のうち30カ国以上からあらゆる年齢層の体操家約2000人が集結し，ひとつの体操を披露する，壮大な集団体操となった．このワールドチームのテーマは「From near or far – Come as you are!」とされ，大規模集団による体操の体験と可能性の提供，また国際交流を深める目的で実施された．日本からは，筑波大学，国士舘大学，自由学園チームが代表で参加し，筆者もメンバーに加わった．

本大会の開催にあたり，ワールドチームの参加国には，事前に今回の体操の構成がビデオ，資料で配布され，大会ホームページでも公開された．また，開催期間中は合同練習２回とリハーサル１回が設けられ，動きや位置，移動等の確認が行なわれた．約６分間のこの体操は，誰でもできるよう簡単な動きとその繰り返しで構成されている．途中約2000人がそれぞれの位置に移動したり，集団ごとに異なる動きをしたりと，隊列変化が多いこともあり，完成時には圧巻の集団体操となった．

合同練習の初めの段階では，各国の練習意欲の違いや英語での一括指示等の理由から動きの伝達が上手くいかないこともあったが，全体で実際に動くと参加者同士の交流で理解が深まる場面が多く見受けられた．集団体操の指導において難しい点とされる全体への伝達作業は，指導者と参加者間だけでなく，参加者と参加者間においても作用していくことを実感することとなった．

老若男女問わず世界中の人々が同じ場所で同じ動きをし，演技者同士はもとより観客も含め会場全体が一体となる雰囲気を味わい，改めて体操の可能性を感じる機会となった．写真 18・19 はワールドチームの様子である．

写真18　World Team 1 [9)]

写真19　World Team 2 [9)]

5．まとめ

今回，ギムナへの参加を通して，ヨーロッパでの幅広い年齢層で構成された体操人口に感銘を受けた．特にフィンランドは開催国ということもあり約4,000人が参加し，また総参加者数も前回の約19,000人から約21,000人と，2,000人程増加している．このことからも，ギムナの盛り上がりが実感できる．

本大会では，初めて目にする体操や，幅広いレベルの体操を数多く見ることができたと同時に，実際に演技者として日本チームで参加できたことは大きな経験となった．ステージ上での適度な緊張や演技後の達成感を味わうことは，体操をすることそのものや健康で在りたいと思うきっかけとなり得る．国際交流や体操の発展に寄与する大本の目的はもとより，この過程を子どもから高齢者まで世界中の誰もが経験できることがギムナの魅力でもあると考える．このような国際大会の盛り上がりは，利便性の高まった現代において，人々が身体活動を始める，または継続する要因のひとつとなることが示唆された．

〔付記〕

本活動は，平成27年度國學院大學国際交流旅費の助成を受けて実施したものです．また，本大会に参加するにあたり，筑波大学の長谷川聖修先生，本谷聡先生に多大なるご協力をいただきました．ここに御礼申し上げます．

〔参考文献〕

1）FIGホームページ（http://www.fig-gymnastics.com/site/page/view?id=236）（2015/10/28 閲覧）

2）2014-2015 一般体操通信 No.29

3）日本体操協会ホームページ
「日本における一般体操普及の歴史　2.世界の体操と世界体操祭」
（http://www.jpn-gym.or.jp/gymnasticsforall/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E4%B8%80%E8%88%AC%E4%BD%93%E6%93%8D%E6%99%AE%E5%8F%8A%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E3%80%80%EF%BC%92-%E4%B8%96%E7%95%8C%E3%81%AE%E4%BD%93%E6%93%8D）（2015/10/28 閲覧）
4）15th WORLD GYMNAESTRADA 2015 HELSINKI ホームページ
「World Gymnaestrada Objectives」
（http://www.wg-2015.com/gymnaestrada/world-gymnaestrada/）（2015/10/28 閲覧）
5）FIGホームページ（http://www.fig-gymnastics.com/site/page/view?id=384）（2015/10/28 閲覧）
6）15th WORLD GYMNAESTRADA 2015 HELSINKI ホームページ
「WG2015 HELSINKI」
（http://www.wg-2015.com/gymnaestrada/wg2015-helsinki/）（2015/10/28 閲覧）
7）15th WORLD GYMNAESTRADA 2015 HELSINKIホームページ
8）15th WORLD GYMNAESTRADA 2015 HELSINKI公式Facebook
（https://www.facebook.com/wg2015Helsinki）（2015/10/28 閲覧）
9）15th WORLD GYMNAESTRADA 2015 HELSINKI公式 DVD

※ 写真 1・12・13・14・15・16・17 は筆者撮影

（すずきおうか　國學院大學人間開発学部健康体育学科助手）